

1:出席者

加藤^a・大西^b・岡部・能登・平林・合川^c・セルゲイ^c・内藤^c・吉田^c・大塚^{c,d}

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2:報告

- シグマ委員会に 7 月 18 日に出席した。我々に関連した話題は

- ・ JENDL3.3 が公開され新段階へ移行
- ・ 来年度天体核データ評価 WG が発足
- ・ 原研・サイクル機構統合後の核データ活動の維持
- ・ 国際情勢 (前運営委員会での報告の通り)

我々の進展として、ウェブ・エディタが完成し、EXFOR への変換が同時に行なわれるようになったこと、検索の利用件数が前年並であることなどを報告した。(加藤)

- 複数の検索結果を重ねてプロットできるツールの開発にセルゲイと内藤が着手した。(大西)

- 辞書 WG でコードに関して運営委員会に対して以下の提案がまとめられた：

1) 新規コード

DELTA-RUTH-RATIO, EXC-ENGY-INTRM, RIA, RPA, DELTA-DSIGMA/DOMEGA/DP, SQNTL-RCT, ASTR, ASTR-SPEC-FCTR, DELTA-ASTR-SPEC-FCTR, UB/SR**2, UB/SR**2/KEV

2) 同義コード

STRNGTH-FUNCT と STRGTH-FUNCT は両方とも展開形が strength function である。前者を Obsolete 扱いとする。

3) SIGMA と ...-XSECTN

SIGMA はヘディングに用い、...-XSECTN は PHQ に対して用いる。

(能登・大塚)

- 2001 年度年次報告書が完成した。(吉田)
- 今年度上半期の採録予定論文は 34 件を予定している。(吉田)

3:議論

- 今年度の活動計画

提案された活動計画を承認した。査読者は 1 ヶ月概ね 1 本の論文を査読する。

- 辞書 WG からの提案に対して

提案を承認する。但し、Astrophysical S-factor の S が Spectroscopic の意味であるかどうかははっきりしないので、S-factor の部分に関しては SPEC-FCTR ではなく SFCTR というコードを W 型辞書に登録し、Astrophysical S-factor に対しては ASTR-SFCTR を V 型辞書に登録することとする。

- ...-ERR と DELTA-... の区別

この区別について片山氏に問い合わせることとする。

- 複数の独立変数を含むグラフの採録方法

論文の図の表現から正規化が適切と判断される場合はそのようにする。但し著者から受け取った数値データが正規化されていない時については将来の検討課題とする。

- 線データを採録対象とすることかどうかについて

辞書 WG で採録基準を議論して提案をまとめることとする。

4:次回

2002 年 9 月 30 日 17:30 より